



校長室だより

第 4 8 号
(通算第101号)
令和5年2月2日(木)
大崎市立沼部小学校
校長 吉田 浩之

節分そして立春

明日、2月3日は節分です。去年は朝会で節分について話をしましたが、今年は朝会のタイミングが合わず、子供たちに節分の話ができません。去年の話と似たような内容ですが、ちょっと違った視点からの話を紹介します。

節分というのは季節と季節の変わり目のことで、節分の「節」はふしという意味です。昔は春、夏、秋、冬の4回の変わり目に節分の行事をしていたようですが、今では春だけの行事になっています。

節分には豆まきをする習慣があります。およそ1700年前に中国から伝えられました。その頃、悪い病気が流行っていて、多くの人が苦しんでいるとき、悪い病気を追い払う行事をしたのが始まりと言われていています。これが各家庭に広がり、今まで続いてきたと言われていています。

豆をまくだけでなく、いわしの頭を焼いたものをヒイラギの枝に刺して「魔除け」とする風習もありますが、今ではあまり見かけなくなってしまいました。鬼が、いわしを焼いた匂いを嫌い、ヒイラギのトゲに刺されることを嫌って、家の中に入れないという言い伝えによるものです。

最近では、厄を巻き込むことができるようにと、巻き寿司を恵方巻として食べることも広まっています。恵方巻を切らずに一本そのまま、その年の年神様の方向を向いて願い事をしながら一気に食べるというものです。今年の恵方は南南東だそうです。

ところで、「福は内、鬼は外」と言って鬼を戸外に追い出しますが、追い出された鬼はいったいどこへ行くのでしょうか。「鬼も楽ではない。」と昔の人も考えたからだと思いますが、鬼どもを家に招き入れて、厚くもてなすという風習が、山形県にはあるそうです。また、奈良県では、「福は内、鬼も内」と言って全国の鬼を集めて仏の力で改心させるという行事もあるようです。

あさって、2月4日は「立春」です。「立春」は「今日から春ですよ。」ということです。桜のつぼみもそろそろ膨らみ始めるかなあ。

明日から春です。「光の春」の季節といって、これからますますお日様の光がまぶしく感じられます。寒さに負けないで元気に過ごしてほしいと思います。



日本人は季節の移ろいをこまやかに感じ取って生活していました。そのような気持ちを大切にしたいと思い、節分について紹介しました。御家庭での話題の一つになれば幸いです。